

令和元年度自己点検・自己評価の結果概要

1 自己点検・自己評価の取り組みの経過

本校は、平成24年度に自己評価委員会を設置し、「看護師等養成所の教育活動等に関する自己評価指針」に基づき、自己点検・自己評価を実施している。実施項目は、指針に準じた大項目9に対する、本校の運営に即した小項目68としている。

平成30年度からは、学校関係者評価を実施し、外部の関係者からの評価及びご意見をいただき、学校運営に対する評価を行い、学校活動全般に関する質の向上を目指している。(学校関係者評価 参照)

2 自己点検評価等により課題とされた事項への主な取り組み

30年度自己点検評価結果をもとに下記の項目に取り組んだ。

(1) カリキュラム改正を見据え、教育目標・卒業時の到達目標の見直しを図る。

カリキュラム改正に伴う教育計画及びプロジェクト学習の検討に特化したチームを立ち上げ検討をはじめた。授業評価や卒業時到達度チェックの見直しを実施した。

(2) 受験生の量と質を確保するための対策を多角的に取り組む。

入試に係る要件の緩和や試験科目の見直しを行うとともに広報活動に力を入れた。

学生募集のポスター作製やオープンキャンパスの内容充実など学生とともに取り組んだ。

(3) 授業準備のための時間をとれる体制整備のため、対策を検討する。

組織定員が1名不足の状態スタートした。教員間のカバーや非常勤及び嘱託職員の確保はできたが、体制整備をするための検討は十分ではなかった。引き続きの課題である。

3 令和元年度自己点検・自己評価結果

評価項目を9大項目68小項目とし、3段階評価の評価基準により実施した。

評価時期は令和2年1月10日から2月7日までとし、令和元年度実施内容に対する評価を、教職員16名で行った。

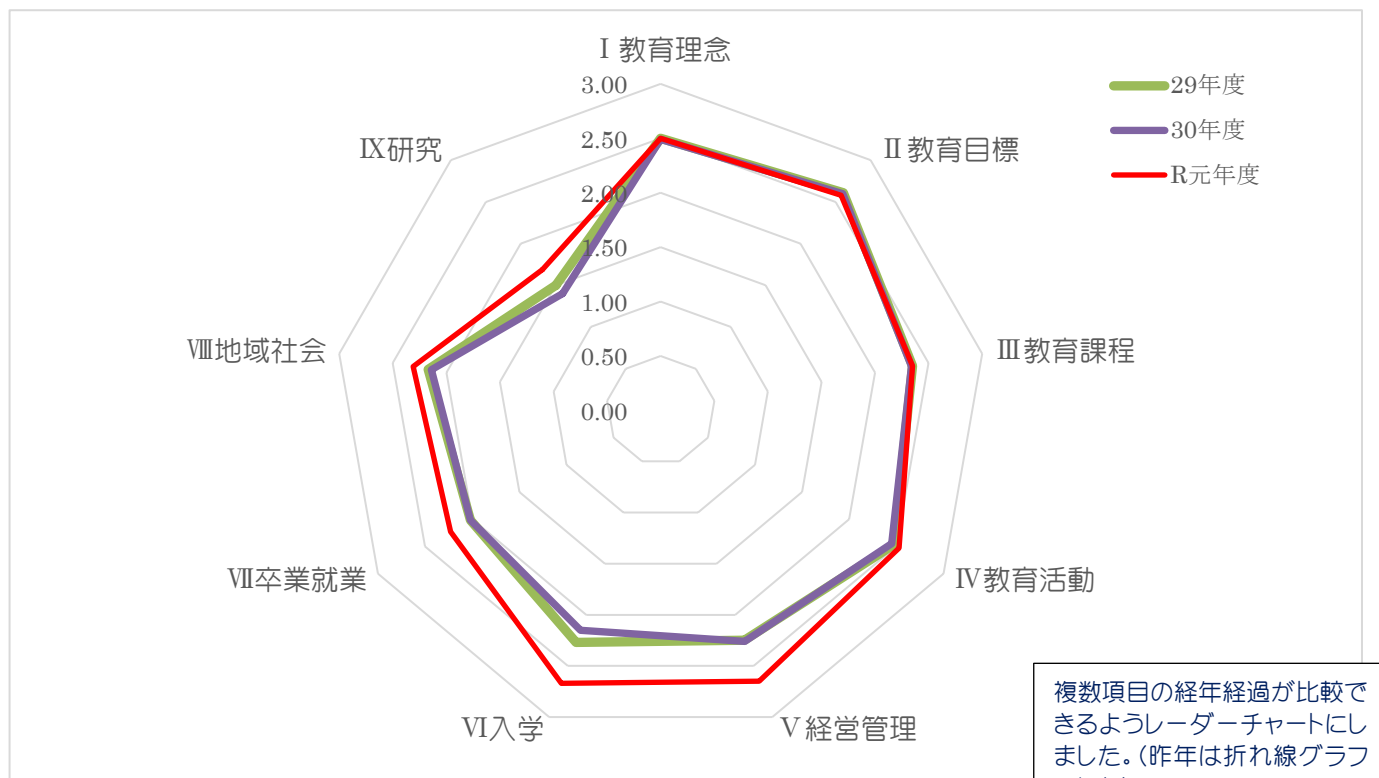
評価結果

平成30年度と令和元年度を比較したところ、全体の平均点は高くなっている。

項目別では、V経営管理とVI入学で改善がみられるが、IX研究は2点を下回っている。

表1 年度別の評価集計結果

大項目	R1	H30	H29
I 教育理念・教育目的	2.50	2.49	2.50
II 教育目標	2.58	2.60	2.61
III 教育課程	2.35	2.34	2.35
IV 教育活動	2.53	2.45	2.47
V 経営管理	2.65	2.26	2.25
VI 入学	2.67	2.15	2.27
VII 卒業・就業・進学	2.23	2.02	2.02
VIII 地域社会	2.31	2.14	2.17
IX 研究	1.69	1.40	1.50
全体平均	2.39	2.21	2.23



- 大項目では、IX研究を除き、全て2点以上の評価だった。
- 評価点全体の平均は2.39と上昇している。特に今年度はV経営管理、VI入学で改善した。
- 前年度2点未満だった小項目は、下記のとおりである。
 - 2点以上へ改善
 - III-23 教員相互に成長できるよう自己研鑽のシステムを整えている。
 - IV-31 授業内容の重複との整合性・発展性が明確になっている。
 - V-44 教職員の資質の向上についての考え方と対策には教育理念・教育目的達成との整合性がある。
 - V-51 養成所は明確な将来構想のもとに、運営の中・長期化計画、短期計画、年間計画を立案しており、その実施・評価は将来構想との整合性を持っている。
 - VI-56 受験生・入学生の本質と量を確保するための対策を多角的に、組織的に計画・実施・評価している。
 - VII-62 卒業生の活動状況の把握・統計的整理と分析結果を本校教育へ反映させる。
 - VIII-66 養成所が設置されている地域の特徴を把握し、地域内における諸資源を養成所の学修・教育活動に取り入れている。

2点未満のまま

- III-21 教員が授業準備のための時間をとれる体制を整えている。
- IX-68 教員の研究活動を保障（時間的、財政的、環境的）している。

新たに2点未満へ低下 なし

4 今後に向けて

- 令和元年度の結果を受け、令和2年度は次の取り組みを行う。
- ① 臨地実習における学生の安全教育、安全対策を強化する。
 - ② 地域社会における学校のあり方や活動を検討し、地域貢献できる。
 - ③ 卒業生の活動状況を把握し看護基礎教育に反映できる方法を検討する。
 - ④ 教員が授業準備のための時間をとれる体制を検討する。

2022年のカリキュラム改正へ向けた準備を進める中、地域の特徴、本校の特徴を生かしながら、将来を見据えた展望を明確にし、取り組みを進めたい。

併せて学校関係者評価において、いただいた多くの貴重なご意見・評価を踏まえ学校運営全般の質向上を図っていききたい。